回 答 書

受付番号	回収年月日	回収場所	担当主管課
第 1 1 号	平成26年5月30日	伊予市役所	総務部
題 目（テーマ）：ホームステイ制度の創設を			
提 案 内 容（要旨）			
<p>これからは、ホームステイによる滞在型観光を目指す必要があります。それも、ゆったり、ゆったりした田舎暮らし。地元の我々が気付かない魅力を外部の方が感じることもあり得ます。定年後の方がゆったりと田舎暮らしを堪能する場面を想像します。</p> <p>暮らしやすい町だと気に入れば、移住を考えていただいてもいいでしょう。彼らが持ち込む「年金経済」も魅力です（医療費との相殺関係は考慮の余地あり）。彼らの家族（孫たち）との関係で、交流人口の拡大も期待できます。</p> <p>私の提案はグリーンツーリズムの一種とも言えそうですが、何か具体的な体験をしようと頑張るのではなく、瀬戸内の田舎町で、なにもしない、ゆったりした時間を過ごすという提案です。観光、観光と、キョロキョロする必要はないと思います。</p> <p>平成29年の国民体育大会をひとつの目標として整備してはどうでしょうか。ホストファミリー100軒を目標とします。素泊まり1泊千円が目安。ホストファミリー希望者が家屋改修を必要とする錫合の補助制度が必要になるかもしれません。</p> <p>ウェルピア伊予では学生の合宿が盛んに行われています。その補助システムとしての活用も考えられていいでしょう。そういう意味合いにおいて、ウェルピア伊予をホームステイ受け入れ窓口とすることを提案します。</p> <p>素泊まりが良いと思われるのは、伊予市を堪能していただきたいからです。街の飲食店で地元の方との交流が期待できます。我が町での消費も期待したいところです。ホストファミリーとの交流を希望される方には飲食の提供（廉価な有料で）もっていいと思います。</p> <p>世界で最も暮らしやすい町、市。それを堂々と発信したいものです。</p>			
回 答 内 容			
<p>このたびは、ホームステイを活用した新しい観光推進への取り組みにつきまして、ご発案いただきありがとうございました。</p> <p>ご指摘いただきましたとおり、観光客のニーズが多様化・個別化する昨今、今回のご提案は時宜を得たものであり、市民の皆様からこうした力強いご協力の声をいただけることは大変ありがたく存じます。</p> <p>こうした取り組みを始めていただくためには、下記の課題について留意する必要がありますので、ご注意くださいと思います。</p>			

1 自主的・継続的に受け入れできる仲間・団体づくり

ご提案の素泊まり1泊1,000円という宿泊料金は、受け入れ側市民の収入確保や経済的活性化の手段というよりは、むしろ都市住民との交流を目的としたボランティア意識からのご提案と拝察いたします。

初対面の他人を自宅に宿泊させることに賛同していただける方を増やしていくことは、当初は理解を得られにくいところもあるかとは思いますが、まずは率先して観光客の受け入れを実践していただくことで、周囲の方にボランティアの魅力や、やりがいを広く周知いただき、少しずつ賛同者・協力者を増やしていくことが肝要かと思われます。

2 有料で宿泊・食事提供を行うための設備整備と法令に基づく許認可

宿泊施設及び食事を継続的に有料で提供する際には、旅館業法に基づく客室設備の整備や食品衛生法に基づく飲食店営業の許可等が必要となります。近年の規制緩和で許可基準は緩和されておりますものの、1,000円程度の宿泊料金であってもこうした対応が必要であることを考えると、投資資金の回収は困難と考えざるを得ません。

観光客との交流を目的とするのであれば無償ボランティアで、経済効果を目的とするのであれば資金が回収できる料金設定で、というように期待する効果を明確化されることをお勧めいたします。

ちなみに、旅行者に対して無償で宿泊場所を提供する際には、特に許可や設備の整備は必要ないようですので、無償ボランティアによるホームステイ受け入れであれば、すぐにでも対応は可能かと存じます。

なお、宿泊施設の提供や、飲食物の提供をされる場合の許認可につきましては、愛媛県の中予保健所の所管業務となっております。当市では観光事業の担当となります。

ちなみに、経済雇用戦略課が窓口になりますので、お気軽にご相談ください。

3 持続可能な受け入れ窓口の整備と誘客方法の確立

受け入れ先の確保も重要ですが、継続的かつ組織的に利用者からの申込みや問い合わせを受けるなど、宿泊先と旅行者との間に立つ窓口が無ければ、誘客には繋がりにくいかと思われます。

今回ウェルピア伊予を受け入れ窓口にするご提案をいただいておりますが、現在のウェルピア伊予の業務形態や施設管理に関する協定、予想される事務内容等から判断いたしますと、当該施設が無償で対応することは不可能です。

つきましては、今回の取り組みに賛同してくださる皆様がグループを作り、当番制などのルールを定めて対応されますことをご提案いたします。

またそうした機会に合わせ、お仲間が定期的に集まって、情報交換や改善点を話し合うなどの機会を設けられますと、長期的な受け入れ水準の維持や交流方法の共有に繋がるのではないのでしょうか。

なお、ご提案にありますように、こうした取り組みから移住希望に繋がることも期待できますので、将来的にはぜひ近隣の皆様にもお声がけいただき、空き家の活用など、移住促進に向けた取り組みにつきましてもご尽力いただけますと幸いです。

こうした一連の取り組みが具体的になりましたら、行政といたしましても情報発信等の面で支援が可能となるかと思えます。

広報紙やホームページ、観光協会発行の冊子等にも連絡先を掲載するなど、可能な限りご協力をさせていただくことで、集客はもとより、受け入れボランティアを希望される方の増加にも繋がると思えます。

ご提案いただきました内容は、補助金や設備整備といった行政の一方的な制度構築ではなく、市民の皆様一人ひとりのご協力がなければ成り立たないものと考えます。

今後も市民の皆様と行政が連携した取り組みとなりますよう、一層のご協力をお願いいたします。